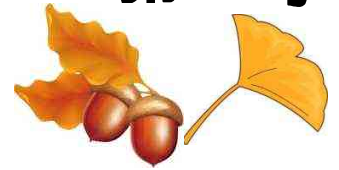


学校支援本部ってなんだろう新聞

第五号



平成25年11月29日発行
発行：杉並区学校支援本部運営委員会
(事務局) 杉並区教育委員会事務局学校支援課
杉並区阿佐谷南 1-15-1 TEL 3312-2111 (内) 1643
Eメール gakko-sien@city.suginami.lg.jp

学校支援本部ってなんだろう新聞の発行にあたって
この新聞は、本部関係者のほか、教職員、PTAを対象に発行しています。増刷は大歓迎です。
また、お読みいただいた皆様から寄せられる声をエネルギーとして、年三回発行しています。
ちょっとイイ話、困ったこと、提案など、どしどしお寄せください。

学生ボラ 大活躍！

前回の編集長提案を受け、学生ボランティアが活発に活動に参加している富士見丘中と西宮中の支援本部から、取組の報告が届きました。

富士見丘中学校支援本部 JOINT の取組

支援本部 JOINT の活動は発足して5年、多くの地域の方・大学生の方に支えられています。土曜日学校・夏のパワーアップスクール(学校主催)の学習支援、漢検・英検の会場監督、介助支援など、学生ボランティアの存在は富士見丘中には欠かせません。

毎年3月、社会人になる学生との別れがありますが、4月には「ぜひお手伝いしたい」という卒業生や、教師を目指している学生、どなたかのお知り合いなど、また新しい出会いがあります。「中学生対大人」という関係に大学生が加わることで、すべての人に新しい気づき生まれ、お互いを理解する大変貴重な場になっていると感じています。とりわけ中学生にとって、少し年上の学生から得る知識は、学習面だけでなく進路のことなど多岐にわたっています。

(学校・地域コーディネーター：宮原弘美さん)



西宮中共育支援本部の取組

西宮中共育支援本部は、「学び」の支援を中心に活動しています。そして、その中心になっているのが本校を卒業した大学生です。平成17年度よりアフタースクールスタディ(放課後学習教室)を実施しております。スタート当初は卒業生の大学生に声かけしたり、近隣の大学教務課にボランティア募集のチラシを配ってもらったりしてお手伝いを募りました。元生徒会メンバーや部活で活躍した卒業生を中心に輪が広がり1年1年と後輩たちがお手伝いをしてくれるようになりました。4年目くらいからは、アフタースクールスタディでの卒業生がお手伝いに来てくれるような循環が生まれ、現在に至っております。

最初から関わる私にとって、卒業生が後輩たちに、自らの「学び」の経験を踏まえて受験に向かう心構えを話している姿は実に微笑ましく、長くやり続けてこそその卒業生ボランティアの活躍だと感じます。この循環が永遠に続くことを期待しています。(学校・地域コーディネーター：大島和美さん)



初任者研修

「学校と地域がともに教育を進めるために必要なこと」
講師：国立教育政策研究所 総括研究官 山森光陽氏

課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力は、体験活動を通して育むことができます。コーディネーターには、この体験活動の充実のために、学校や先生と、学校外の「人・モノ・カネ」をつなぐ役割があります。

学校教育の仕組みや現状について理解し、体験活動が子どもの成長にどのような意味があるのかを考え、先生と話を進めてみてください。

お台場での海苔づくりの体験授業に協力した経験を通して、先生が考える指導計画に沿った体験活動をコーディネートすることで、より良い学習効果があるのだと気付きました。

コーディネーターが地域を知る専門家になればなるほど、授業はより良くなり、それは、先生の力量の向上につながっていくことも期待できます。
(文責：学校支援課)

スキルアップ研修

「次世代を担う子どもたちに必要な力とは」
講師：筑波大学教授 藤田晃之氏

日本の中学生は、学習意欲が世界の中でも非常に低く、まずは勉強への興味を持たせることが必要です。子どもは、発達の段階が上がるにつれ、学校での学習内容と「自分の世界（日々の生活や身近に思うこと）」がかけ離れ、学習に興味・関心が持てなくなります。子どもの「自分の世界」を広げることこそが解決につながります。

そこで、地域の力を活用したキャリア教育が重要になります。地域・企業等との連携による体験を通じた学びによって、現在の学習と「大人の世界（＝未来の私の世界）」との接点を発見することができます。つまり、キャリア教育は、学びのエンジンです。学んだ知識と生活とのつながりを理解することで、学習意欲が高まり、将来に向けて子どもの社会参画力を育てていきます。

(文責：学校支援課)

「夢プロジェクト」決定！

学校支援本部“初”の試みとして、各学校支援本部に「夢プロジェクト」企画の提案を呼びかけました。そして、募集期間が短かったにもかかわらず、小学校15本部（企画提案数18件）、中学校1本部（企画提案数2件）の応募がありました。

どの企画も創意工夫のある素晴らしいものでしたが、以下8つの企画を「夢プロジェクト」として採用されました。この審査基準は、5つの項目（学校との連携・地域資源の活用・発展性・創造性・費用対効果）から行われました。

「生きる力向上につなげる土曜日モデル事業」(杉並第一小学校学校支援本部)

「ももし地域アーカイブス」(ももし学校支援本部)

「言霊検定」(沓掛小学校学校支援本部)

「高井戸キュウリ」復活作戦！伝統野菜から学ぼう」(高井戸小学校学校支援本部)

「松庵小学校を国際理解教育の推進校に」(松庵小学校学校支援本部)

「ためしてみようプロジェクト：社会科:昔の道具を体験させ、

家電メーカーの人にものづくりを聞く」(和田小学校学校支援本部)

「土曜日英語教室：世界にはばたけグローバル教室」(三谷小学校学校支援・地域共生本部)

「わたしたちのあまぬま（仮称）」(天沼小学校学校支援本部（あまぬまワンダラーズ）)

みなさんの声をご紹介します

新聞拝受しました。学生を育てる活動は必要なことと実感しております。先日は、荻窪中学校においてCS委員会主催で、CS委員と学校支援委員とPTA役員の交流会を行いました。テーマは『15歳ビジョンの策定』でした。新たな仲間もどんどん増やして、学校の支援が出来たらと思います。(K)

ご意見、ありがとうございます。皆様もぜひ、お気軽に感想などお寄せください～い！！